

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 17 日現在

機関番号：13501
研究種目：基盤研究(C) (一般)
研究期間：2013～2015
課題番号：25350069
研究課題名(和文) 歴史的町並み・集落における生活文化と地域共創の住まい・まちづくりに関する研究

研究課題名(英文) Study on lifestyle and collaborative housing and town planning in the historic landscape of villages and towns in Japan

研究代表者
田中 勝 (TANAKA, Masaru)
山梨大学・総合研究部・教授

研究者番号：70202174
交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は全国110ヶ所の伝建地区を対象として伝建地区における生活文化の継承と歴史的町並み・集落の保存とを一体的に実現していくための地域共創の住まい・まちづくりの多様な実践、仕組み、現代的意義について全国規模の調査より明らかにした。また伝建地区における住まい・まちづくり学習の教材として各地区を代表する民家をモデルにしたペーパークラフト3種類を新たに開発するとともに、小・中学校の総合的な学習の時間を活用した町並み保存学習への導入を試みた。民家ペーパークラフトの活用は身近な町並みや生活文化について子どもたちの主体的な学びを育み、町並み保存や地域共創のまちづくりの担い手育成に有効であることを実証した。

研究成果の概要(英文)：The system of preservation districts for groups of historic buildings started in 1975. The number of preservation district in Japan has increased to 110 places in the past 40 years. This indicates a growing consciousness of the residents for the preservation of the historic landscape. The purpose of this study is to clarify the various practices of housing and town planning learning by the cooperation of the community in many preservation districts in Japan. In this study, we have developed three new paper craft. Each paper craft shows well the characteristics of the traditional houses in harmony with the climate and lifestyle of Japan. Through some of the teaching practice analysis, we have examined the effectiveness of the paper craft as a teaching material for collaborative housing and town planning learning in elementary and junior high schools in preservation districts for groups of historic buildings.

研究分野：複合領域

キーワード：伝建地区 歴史的町並み・集落 住まい・まちづくり 地域共創 生活文化 民家ペーパークラフト
授業実践

1. 研究開始当初の背景

伝統的建造物群保存地区(以下、伝建地区)とは伝統的建造物群及びこれと一体をなしてその価値を形成している環境を保存するために市町村が定める地区のことであり(文化財保護法第142条)、市町村からの申出を受けて特に価値が高いと判断したものを国が重要伝統的建造物群保存地区(以下、重伝建)に選定している。昭和50年の伝建地区制度創設から40年が経過し、平成27年7月現在、伝建地区は北海道から沖縄県まで全国90市町村110地区に達している。これらの地区では伝統文化や暮らしの継承を図りつつ、住民の主体的参加と協働による歴史的町並み・集落の保存・活用に熱心に取り組んでいる点に特色がある。各地のまちづくりにおいて伝建地区は観光資源として、あるいは地域活性化や地方創生的手段として注目を集めているが、今後の方向性としては、地区内の歴史的建造物等の文化財としての価値を高めていくとともに、そこで暮らす人々の暮らしの知恵や四季折々に繰り広げられてきた伝統行事、地域の絆やコミュニティなど豊かな暮らしの文化にも目を向け、これらハードとソフトとを一体的に捉えて次世代へと継承していくことが求められている。そのためには歴史的町並みや暮らしの文化を保存・継承していくための担い手育成や世代間交流が重要であり、学校・地域・自治体・専門家・NPO等の多様な主体の参加と協働による地域共創の住まい・まちづくり学習の充実が課題となる。

こうした問題意識から、研究代表者は平成21年度～平成23年度科学研究費(基盤研究(C))により「伝建地区の住まい・まち学習にみる地域住文化の伝承と世代間交流に関する研究」を実施した。本研究はこの研究テーマの継続研究として新たな課題を設定し、3年間調査・分析を行ったものである。

2. 研究の目的

地域の気候・風土や生活様式に対応し、世代間交流によって豊かな暮らしの文化を育みながら歴史的な町並み・集落を形成してきた全国の伝建地区を対象に、生活文化の継承と歴史的町並み・集落の保存・活用とを一体的に実現していくための地域共創の住まい・まちづくりの多様な実践とその現代的意義について全国規模の調査より明らかにする。また、小・中・高校の家庭科や総合的な学習の時間等の授業を支援するための住まい・まちづくり学習の教材開発と授業実践を試みることで、伝建地区の町並み保存の担い手育成や協働の仕組みづくりについて検討することを目的としている。

3. 研究の方法

平成25年度から平成27年度までの3年間、全国の伝建地区を対象に主に次の5つの調査・分析を行った。

- (1) 伝建地区の民家・町並み(集落)・まちづくりを活用した住まい・まちづくり学習の実態把握と授業実践事例の収集(全国規模のアンケート調査、学校・教育委員会・自治体への現地聞き取り調査)
- (2) 伝建地区の生活文化及び町並み保存活動の把握(自治体及び町並み保存団体等への現地聞き取り調査、伝建地区行事の観察調査)
- (3) 伝建地区の民家ペーパークラフトの開発
- (4) 民家ペーパークラフトを活用した授業実践と評価
- (5) その他(伝建地区の町並み・集落の現況調査、住まい・まちづくり学習の動向・事例調査、文献研究等)

4. 研究成果

- (1) 伝建地区における民家・町並み・まちづくり学習の実態

① 調査概要

全国の伝建地区における民家・町並み(集落)・まちづくりを題材とした学習への取り組みや具体的な授業実践内容を把握するため、全国106ヶ所の伝建地区内及び近隣の小・中・高校計476校を対象に全国規模のアンケート調査を実施した(郵送配布・回収方式)。調査時期は平成26年3月で、回収数は233票、有効回収率は48.9%であった。

② 調査結果概要

平成25年度内に学校行事として伝建地区の民家や町並み・集落、及び地区内の保存建物・施設等の見学を実施した学校は全体の約2割であった。一方、家庭科、社会科、生活科、総合的な学習の時間等で伝建地区の民家や町並み・集落、まちづくり等を題材にした授業を実践した学校は全体の約半数を占めた。教科別には「総合的な学習の時間」や「社会科」の活用例が多く、「町並み散策」、「マップ・絵地図づくり」、「絵画・スケッチ」ほか、浴衣の着付け、観光ガイド、新聞・ビデオ制作、カルタづくり等、伝建地区の町並み特性や生活文化を活かした各種活動や体験を授業に取り入れていた(図1)。

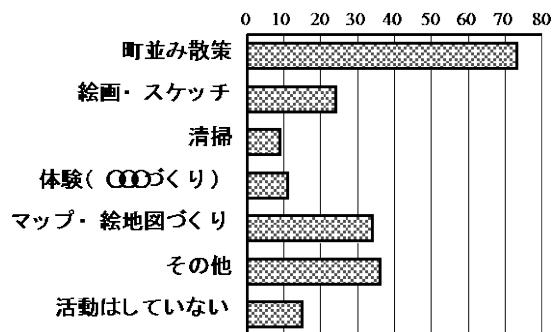


図1 伝建地区の民家・町並み・まちづくりを題材にした授業での活動(複数回答)

授業実践の場や題材として伝建地区を選んだ理由としては「地域やふるさとをよく知

ることが大切」、「地域に誇りをもち、ふるさとを愛する心を育みたい」などが挙げられた。授業実施にあたって外部講師としてボランティアガイドや自治体（教育委員会を含む）職員の協力を得た学校は全体の2/3を占めた。

この調査により伝建地区を題材にした住まい・まちづくり学習の多様な実践内容を地区別に、また学校種別に、全国規模で把握することができた。

(2) 授業実践の事例調査

アンケート調査結果をもとに、全国の伝建地区の中から地域共創の住まい・まちづくり学習を実践している地区や学校を抽出し、現地聞き取り調査を行った。いくつかのモデル的な実践例をまとめると次のようである。

① 佐賀県鹿島市

醸造業を中心に発展し、防火構造の居蔵造町家や土蔵造大型酒蔵等が建ち並ぶ鹿島市浜中町八本木宿地区は平成18年7月に重伝建に選定された。この地区ではNPO法人肥前浜宿水とまちなみの会が町並み保存活動に積極的に取り組んでいる。たとえば毎年5月には伝建地区の町並み、伝統的建造物、自然、暮らし等を描く「肥前浜宿スケッチ大会」を鹿島美術人協会と共に主催している。園児から大人まで700名超の人々が参加するこのイベントは肥前浜宿の町並みの魅力や宝物を発見する町並み保存活動として、同時に学校教育の一環としても定着しており、歴史的町並みの保存意識の醸成に寄与している。

鹿島市A小学校では4年生の総合的な学習の時間を使って「酒蔵通りのガイド名人になろう！」の授業を実践している。町並み保存会や地域住民の協力を得て、酒蔵通りのひと・こと・ものを探究し、その成果を毎年10月下旬に開催される「秋の蔵々まつり」の場で子ども町並みガイドとして発信するユニークな取り組みである。子どもたちはグループ毎に建物の前に並び立ち、観光客や地元住民を前にやや緊張しながらも堂々と学校での練習成果を披露する。ガイドを終えたあとの観光客からの拍手や声援は子どもたちに達成感や自信を与え、それが町並みを愛する心を育むのにつながっていた。

② 岐阜県白川村

世界遺産の合掌集落に近い岐阜県白川村B小学校では4年生の総合的な学習の時間を使ってふるさと学習を推進している。具体的には、合掌造り家屋に代表される地域の伝統・文化について学ぼうと「合掌造り家屋を造ろう」の体験型授業を実践している。この授業の特色は合掌づくり家屋についての基礎的な学習を終えたあと教育委員会職員を外部講師に招き、4年生全員が協力して合掌造り家屋を組み上げていく活動にある。実際に利用するのは合掌造り家屋をモデルにした屋根組み部材で、「ハコマキ」、「ネソネリ」などの伝統技術もあわせて習得する。合掌造りの仕組みや結の心について、体験を通して

学ぶ共創的な住まい・まちづくり学習となっている。

③ 沖縄県竹富町

日本最西端の伝建地区・竹富島の集落内にある大正2年建築の旧与那国家住宅は平成19年に重要文化財に指定された。竹富町C小学校では平成13年度から数年間、総合的な学習の時間等を使って竹富島の赤瓦民家、石垣、旧与那国家住宅等をテーマに地域学習を展開した。学校・地域・NPO等の協働によるこれら竹富島学習の成果はソニー子ども科学教育プログラム連続入選となり、その後は平成25年度から沖縄県が取り組み始めた風景学習へと受け継がれている。

(3) 民家ペーパークラフトの開発

気候・風土に対応し歴史・文化に根ざして豊かな暮らしの文化を育んできた伝建地区を教材化することで子どもの主体的な学習を支援したいと考えた。研究代表者はこれまで学校での住まい・まちづくり学習の充実のために各地の民家や現代住宅をモデルにしたペーパークラフトを開発し、授業実践を重ねてきたが、新たに伝建地区内の重要文化財等民家をモデルにした「民家ペーパークラフト」を開発した。具体的には平成25年度の大村家住宅（愛媛県内子町八日市・護国地区）、平成26年度の平川家住宅（福岡県うきは市新川田箆地区）、平成27年度の山口醤油醸造場（佐賀県鹿島市浜中町八本木宿地区）の3種類である（写真1、写真2、写真3）。



写真1 大村家住宅ペーパークラフト



写真2 平川家住宅ペーパークラフト

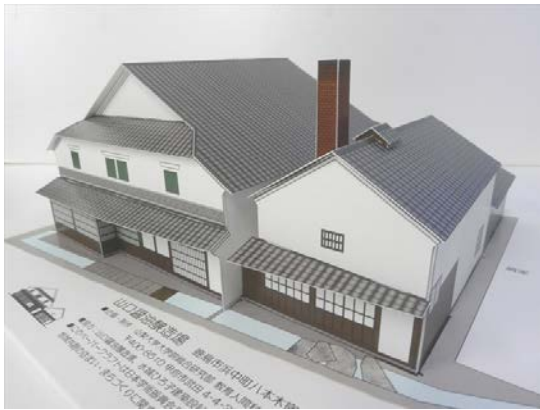


写真3 山口醤油醸造場ペーパークラフト

開発の準備段階では文献・図面調査、現地建物調査、所有者や教育委員会等への聞き取り調査等を行った。いずれのペーパークラフトも実際の建物をできるだけ忠実に再現（縮尺 1/100）するとともに、子どもから大人までだれもが楽しく簡単に組み立てることができるように単純化を試みた。主屋に加えて敷地内にある付属建物も再現し、屋根は取り外し可能とした。これにより外観だけでなく1階や2階の間取りも確認できる。

ペーパークラフトの種類、建物規模・特性、作り手の習熟度等にもよるが、子どもが1人で組み立てた場合、完成までの標準的な所要時間は3～4時間である。自分の手でペーパークラフトを組み立て、しだいに立体化していくプロセスの中に多くの気づきや疑問が生まれ、伝建地区の歴史的な建物の構造、間取り、周辺環境、人々の暮らし、町並み保存活動等へ学びの視点が広がっていくことをねらいとしている。学校教育現場では地域の住まいや住生活にかかわる魅力的で実践的な教材や学習プログラムが求められており、伝建地区の代表的な民家をモデルにしたペーパークラフトシリーズ（今回の3種類に青森県、山梨県、岐阜県、沖縄県内の民家5種類を加えた計8種類）は小・中・高校の授業（総合的な学習の時間、社会科、家庭科、図画工作等）における民家・町並み・まちづくり学習のニーズに対応できると考えられる。

(4) 民家ペーパークラフトを活用した住まい・まちづくり学習の授業実践と評価

学校や教育委員会の協力を得て、伝建地区の民家ペーパークラフトを活用した授業実践を試みた。さらに授業後の感想文、アンケート、ビデオ分析から民家ペーパークラフト導入の効果と課題について検討した。

①愛媛県内子町D中学校の授業実践

内子町D中学校の協力を得て平成26年11月、1年生の総合的な学習の時間「内子のとびら」の一部を使って平成25年度に開発した大村家住宅ペーパークラフトを組み立てる授業を2日間にわたって展開した。対象は1年生2クラスで、模型づくりのサポーター

として愛媛大学教育学部4年生2名の協力を得た。ペーパークラフトを初めてつくった生徒が多く、組み立ては難しく感じられたようだが、町並みの中にある代表的な民家の模型づくりを通して生徒は内子の自然・歴史・文化・産業について課題意識をもつようになった。授業後のアンケートでは7割を超える生徒が今回の授業を「とても楽しかった」と回答し、大村家住宅や内子について「もっと知りたい」、「町並みを大切にしたい」と思う生徒が増えていた。古い町家を改修し、内子の歴史的な町並みを残していくことを重要（たいへん重要+まあ重要）と考える生徒は96%を占め、八日市・護国地区の町並みを保存していくために必要なこととして「伝統的な行事を大切にする」、「見学できる建物を増やす」、「観光客を増やす」などを挙げていた（図2）。今回の総合的な学習の時間の授業後は全体の9割弱の生徒が八日市・護国地区の町並み保存に「積極的に関わっていきたい」、「機会があれば協力したい」と回答し、約8割の生徒は内子町の自然・歴史・文化・産業や町並みについてもっと深く学習したいと回答した。このように総合的な学習の時間へのペーパークラフトの導入は町並み保存学習の充実に大きく寄与したことを示している。

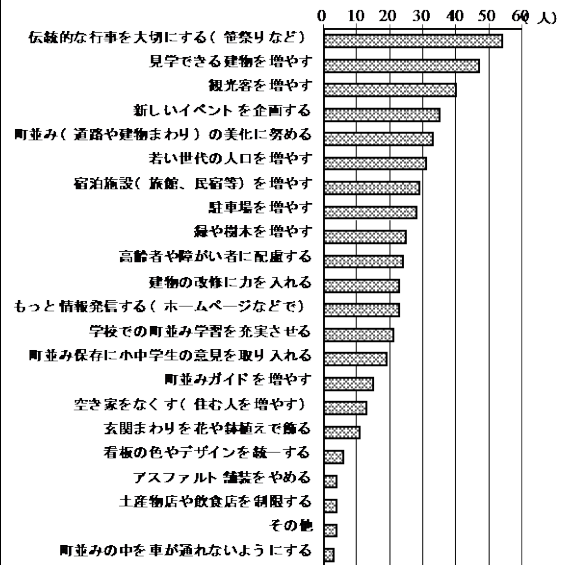


図2 今後の町並み保存の課題（複数回答）

②愛媛県内子町E小学校の授業実践

内子町E小学校の協力を得て平成27年12月、大村家住宅ペーパークラフトを使った授業実践を試みた。対象は6年生2クラスで、それぞれ総合的な学習の時間の中の3時間分をペーパークラフトづくりに充てた。前年度のD中学校での授業実践結果を踏まえ、よりきめ細かな指導が行えるようにペーパークラフトの組み立てを支援する学生サポーターを5名に増員した（山梨大学生2名、愛媛大学生3名）。教員養成系大学に在籍する

5名は児童のそばに寄り添い、組み立てプロセスにおける素朴な疑問や戸惑いを解消し、楽しい授業づくりに向けて的確に対応した。授業後の感想文を読むと、ペーパークラフトを初めて組み立てる児童の多くが「面倒、難しい」と捉えていたが、友人の協力や大学生のサポートにより組み立てが進むにつれて「うれしい、楽しい、おもしろい」という心理に変化した。集中して1つの模型を作り上げた満足感・達成感は大村家住宅への興味・関心や伝建地区の町並み保存へ関わろうとする意識の変化につながっていた。このように民家ペーパークラフトを導入した民家・町並み保存学習は小学生を対象にした総合的な学習の時間でも有効であることが確かめられた。

③岐阜県白川村F小学校の授業実践

平成28年2月、岐阜県白川村F小学校の協力を得て、平成24年度科学研究費（課題番号22500698、研究代表者：小川裕子静岡大学教育学部教授）により開発した岐阜県白川村の旧遠山家住宅ペーパークラフトを使った授業実践を試みた。旧遠山家住宅（現在は旧遠山家民俗館として公開中）は白川村を代表する合掌造り民家で、昭和46年12月に重要文化財に指定された。

旧遠山家住宅ペーパークラフトを使った授業は4年生の総合的な学習の時間の一部を使って実施した。教育委員会職員が旧遠山家住宅の歴史、建物構造や間取りの特徴について説明を行ったあと、ペーパークラフトの組み立てを行った。授業後の感想文を読むと、児童は模型づくり体験を通して旧遠山家住宅の構造、間取り、空間構成、住まい方等が現代住宅とは異なることに気づき、家族制度、先人の知恵、白川郷の生活文化への疑問や感動を体感することになった。ペーパークラフトづくりの活動は合掌造りへの児童の興味・関心を高め、学びの欲求を引き出し、ふるさとを誇りに思う態度を培うことにつながったと考えられる。



写真4 旧遠山家住宅ペーパークラフト

(5) 研究成果の発信・公開

伝建地区における地域共創型の住まい・ま

ちづくり学習の充実のため、これまでに開発した民家ペーパークラフトや授業での活用例を掲載したリーフレットを作成した。リーフレットはA4版（両面印刷）とA4三つ折り版（両面印刷）の2種類で、山梨県内の学校ほか関係機関に配布した。一定の反響があり、平成28年度には山梨県内の高校の授業での活用が計画されている。



写真5 民家ペーパークラフト教材のリーフレット（2種類）

(6) まとめと課題

伝建地区内及びその近隣の学校では総合的な学習の時間や社会科等の授業を活用し、身近な伝建地区を取り上げ、歴史的な町並み・集落及び生活文化を教材にした住まい・まちづくり学習の実践が行われていた。本研究では全国規模のアンケート調査と現地調査によりその実態を詳細に把握するとともに、伝建地区における住まい・まちづくり学習の事例を数多く収集することができた。

この伝建地区における住まい・まちづくり学習の実践には学校だけでなく、地域住民や町並み保存会、NPO、専門家、自治体・教育委員会との協働による地域共創型のユニークなものが多くみられた。参加と協働による体験的な授業実践は子どもたちに歴史や伝統に支えられた町並みの魅力を感じさせ、地域の伝統文化の継承や町並み保存に主体的に関わっていこうとする意識や態度を培うことにつながっていた。

民家ペーパークラフトの学校教育教材としての評価は高く、これまでの研究や授業実践においてその導入効果が実証されている。そこで今回は新たに愛媛県、福岡県、佐賀県内の代表的な民家ペーパークラフトを開発した。これにより各地の民家ペーパークラフトは青森県から沖縄県まで計8種類に増え、各地の民家を手にとって比較することも可能になった。

愛媛県と岐阜県内の小・中学校での授業実践結果より、民家ペーパークラフトは地域の歴史的町並み・集落や生活文化について楽しみながら学べる教材として有効であること、学生サポーターによる授業支援は効果的であったこと等の新たな知見を得ることがで

きた。

今後は限られた授業時間内に完成できるように授業の進め方を工夫したり、ペーパークラフトの内容を改良していくことが課題である。

5. 主な発表論文等

〔その他〕(計 19 件)

- ①田中勝、山口醤油醸造場ペーパークラフト (佐賀県鹿島市浜中町八本木宿伝建地区)、山梨大学田中研究室、平成 28 年 3 月
- ②田中勝、平川家住宅ペーパークラフト (福岡県うきは市新川田籠伝建地区)、山梨大学田中研究室、平成 27 年 3 月
- ③田中勝、大村家住宅ペーパークラフト (愛媛県内子町八日市・護国伝建地区)、山梨大学田中研究室、平成 26 年 3 月
- ④田中勝、作って学ぼう 住まいの文化!、ペーパークラフトを活用した住まい・住生活・町並み保存学習ー総合的な学習の時間・家庭科・社会科などー(リーフレット)、平成 28 年 3 月
- ⑤田中勝、作れば分かる 住まいのヒミツ!、ペーパークラフトを活用した住まい・住生活・町並み保存学習ー総合的な学習の時間・家庭科・社会科などー(リーフレット)、平成 28 年 3 月
- ⑥山梨日日新聞(朝刊)、平成 28 年 5 月 7 日、20 面、「民家模型作り 特徴語り合う」
- ⑦山梨日日新聞(朝刊)、平成 28 年 4 月 16 日、15 面、「伝統建築ペーパークラフトに、山梨大・田中教授がキット開発」
- ⑧西日本新聞(朝刊)、平成 28 年 4 月 6 日、22 面、「山口醤油醸造場 折り紙使い再現」
- ⑨読売新聞(朝刊)、平成 28 年 3 月 17 日、30 面、「山口醤油醸造場の紙模型キット完成、鹿島の伝統的建築再現」
- ⑩佐賀新聞(朝刊)、平成 28 年 3 月 15 日、17 面、「山口醤油醸造場折り紙模型に、鹿島・酒蔵通り 歴史的建造物、学校教育へ期待」
- ⑪佐賀建設新聞、平成 28 年 3 月 10 日、4 面、「山口醤油醸造場ペーパークラフト 教材などでの活用に期待」
- ⑫中日新聞(朝刊)、平成 28 年 2 月 18 日、19 面、「紙模型で合掌家屋」
- ⑬西日本新聞(朝刊)、平成 27 年 12 月 17 日、22 面、「平川家住宅の紙模型製作、山梨大の田中教授 居住者に寄贈」
- ⑭愛媛新聞(朝刊)、平成 26 年 3 月 8 日、「古民家手のひらサイズ、内子・国重文「大村家住宅」」
- ⑮産経新聞(朝刊)、平成 26 年 3 月 7 日、26 面、「大村家住宅」を紙模型に、内子町に寄贈、授業など活用へ」
- ⑯中日新聞(朝刊)、平成 25 年 7 月 23 日、

22 面、「紙模型で合掌造り、山梨大田中さん白川村教委に寄贈」

- ⑰岐阜新聞(朝刊)、平成 25 年 7 月 23 日、21 面、「住まいの学習に活用を、白川村の旧遠山家、ペーパークラフトに」
- ⑱ケーブルネットワーク西瀬戸、ワイドニュース西瀬戸、平成 26 年 3 月 6 日、「大村家住宅のペーパークラフトを内子町に寄贈」
- ⑲八日市護国地区町並保存会、町並にゆーす八日市・護国、第 32 号、模型で大村家を学ぶ、平成 27 年 4 月 15 日発行
- ⑳山梨大学大学院教育学研究科田中研究室(住居学研究室) ホームページ、<http://www.ccn.yamanashi.ac.jp/~tanaka/house.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田中 勝 (TANAKA, Masaru)
山梨大学・総合研究部・教授
研究者番号：70202174

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし